

社会福祉援助技術総論

科目コード

CE3070



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	佐藤 博彦

※この科目は、2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方は履修することはできません。

科目の概要

■科目の内容

「相談援助」とは何でしょうか。また、「ソーシャルワーク」とは何でしょうか。今日、日々変化し続けている社会生活の中で、人々が抱えているニーズも多種多様化しています。ニーズに応えるための相談援助とはいかにあるべきものでしょうか。相談援助に携わる専門職とはどうあるべきものでしょうか。ここでは、それらを明らかにするために、①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。②精神保健福祉士の役割と意義について理解する。③相談援助の概念と範囲について理解する。④相談援助の理念について理解する。⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。以上を主な学習のねらいといたします。

■到達目標

- 1) 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について説明することができる。
- 2) 精神保健福祉士の役割と意義について説明することができる。
- 3) 相談援助の概念と範囲について説明することができる。
- 4) 相談援助の理念について説明することができる。
- 5) 相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明することができる。
- 6) 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明することができる。
- 7) 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について説明することができる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職（第3版）』中央法規出版、2015年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

（スクーリング時の教科書）上記の教科書を使用しますので、必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

ソーシャルワークの「基礎的知識」、ソーシャルワーク実践における「社会福祉士の専門性」「専門職倫理」「権利擁護の重要性」について修得していただきたい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 杉本敏夫・斉藤千鶴編『改訂 コミュニティワーク入門』中央法規出版、2003年
- 2) 高森敬久ほか著『地域福祉援助技術論』相川書房、2003年
- 3) M.E. リッチモンド著『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版、1991年
- 4) 濱野一郎ほか編『コミュニティワークの理論と実践を学ぶ』みらい、2004年
- 5) R. ハドレイ・M. クーパー・P. デール・G. ステイシー共著『コミュニティ・ソーシャルワークハンドブック：地域福祉を進める技術』川島書店、1993年
- 6) Z.T. ブトゥリム著『ソーシャルワークとは何か その機能と本質』川島書店、1986年
- 7) 北川清一・久保美紀編著『社会福祉の支援活動ーソーシャルワーク入門ー』(シリーズ・ベーシック社会福祉②)、ミネルヴァ書房、2008年
- 8) 日本社会福祉士会編『改定社会福祉士の倫理ー倫理綱領実践ガイドブッカー』中央法規出版、2009年
- 9) 中村優一・一番ヶ瀬康子・右田紀久恵監修、岡本民夫・田端輝美・濱野一郎・古川降順・宮田和明編『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、2007年
- 10) 北島英治著『ソーシャルワーク論』(MINERVA 福祉専門職セミナー19)、ミネルヴァ書房、2008年
- 11) パメラ・トレビシック著 杉本敏夫監訳『ソーシャルワークスキル～社会福祉実践の知識と技術』みらい、2008年
- 12) 久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 13) 太田義弘・秋山薊二編著、中村佐織・斉藤順子・谷口泰史・佐野真紀共著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館、2002年
- 14) ソーシャルワークケアサービス従事者研究協議会編、大橋謙策編集代表『日本のソーシャルワーク研究・教育・実践の60年』相川書房、2007年
- 15) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』中央法規出版、2015年
- 16) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』中央法規出版、2015年
- 17) 空閑浩人著『ソーシャルワーカー論ー「かかわり続ける専門職」のアイデンティティ』ミネルヴァ書房、2012年
- 18) 清水隆則著『ソーシャルワーカー論研究ー人間学的考察』川島書店、2013年
- 19) 家高将明著 杉本敏夫監修『現代ソーシャルワーク論ー社会福祉の理論と実践をつなぐ』晃洋

書房、2014/5年

- 20) 空閑浩人著『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築 (MINERVA 社会福祉叢書)』ミネルヴァ書房、2014年
- 21) 山辺朗子著『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン：その理論と実践 (新・MINERVA 福祉ライブラリー)』ミネルヴァ書房、2015年
- 22) 空閑浩人著『ソーシャルワーク (新・基礎からの社会福祉)』ミネルヴァ書房、2015年
- 23) 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟 (監修)『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版、2015年
- 24) 衣笠一茂著『ソーシャルワークにおける「価値」と「原理」：「実践の科学化」とその論理構造 (MINERVA 社会福祉叢書)』ミネルヴァ書房、2015年

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」を原則とした、専門職としての相談援助とは何か、ソーシャルワークとは何かを本講義では考えていきたいと思えます。

現代社会の複雑化する地域生活の中で、支援を必要としている人々のニーズも、年々多様化・複雑化してきています。人々が抱えている生活課題を解決するための相談援助とはどのようにあるべきなのでしょう。一緒に考えてみたいと思えます。

ソーシャルワークの歴史・意義・価値等を踏まえた上で、相談援助の専門職であるソーシャル・ワーカー（社会福祉士）の活動について、具体的な実践例を紹介しながら、「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」の理念に基づいた、ソーシャルワーク実践の重要性を考えていきたいと思えます。ソーシャルワークとは、社会福祉士とは、専門的相談援助とはなにか、を明らかにしていきたいと思えます。

教科書は、よく読んで出席してください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義	法改正の背景・社会福祉士の定義と専門性・精神保健福祉士の定義と専門性
2	相談援助の定義と構成要素	ソーシャルワークの概念 (IFSW の定義等)・ソーシャルワークの構成要素 (クライアントシステム、社会資源等)
3	ソーシャルワークの形成過程①	ソーシャルワークの源流～1930年代
4	ソーシャルワークの形成過程②	1940年代～現代

回数	テーマ	内容
5	ソーシャルワークの理念①	価値や権利擁護の概念について
6	ソーシャルワークの理念②	自己決定・社会的包摂等
7	倫理的ジレンマ	専門職倫理の概念等
8	包括的相談援助の全体像	地域を基盤とする活動の重要性
9	包括的相談援助を支える理論	ジェネラリスト・ソーシャルワーク
10	ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲	成立要件・実践範囲
11	ソーシャルワークにおける専門的機能	ソーシャルワーカー(社会福祉士)の実践例の検討・分析・総括
12	質疑応答	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めていきます。また、社会福祉士の実践例を紹介しその解説を行います。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可：ただし、電子機器類・携帯電話は不可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえた上で、試験テーマに沿って自分自身の考えをいかに膨らませながら論述できるかということも評価内容に含めます。用語の解説だけにならないようにしてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

ソーシャルワーカー(社会福祉士)とはどのような人のことを指しているのか。

また、どのような実践をしている人たちなのか。考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉士の役割と意義① 社会福祉士の役割と意義 (第1章第1節)	「社会福祉士及び介護福祉士法」の成立及び見直しの背景から、法における社会福祉士の位置づけを理解し、社会福祉士の専門性や精神保健福祉士の協働について理解する。 キーワード：社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士の専門性、定義、義務、法制度成立の背景、制度見直しの背景、名称独占、精神保健福祉士法、精神保健福祉士の専門性	「社会福祉士及び介護福祉士法」成立までの背景を理解するとともに、社会福祉士および精神保健福祉士の法的位置づけ、そして定義を確認しましょう。また、なぜ、国家資格としての専門資格が必要になったのかを理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	社会福祉士の役割と意義② 現代社会と地域生活 (第1章第2節)	現代社会と地域生活において地域や家庭内で起きていることを把握し、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識について理解する。 キーワード：グローバル化社会、高齢社会、核家族、少子高齢社会、独居高齢者、合計特殊出生率、人口減少、生活扶助機能、孤独死、入所施設、通所施設、地域に開かれた施設、チームアプローチ	現代社会において、どのようなニーズが存在しているのか理解しましょう。キーワードひとつひとつを確認しながらその結果としての実情を考えてみましょう。
3	相談援助の定義と構成要素① ソーシャルワークの概念 (第2章第1節)	国際ソーシャルワーカー連盟の定義やその他の主だった定義を理解する。 キーワード：国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義、全米ソーシャルワーカー協会の定義、ソーシャルワーカーの定義	国際ソーシャルワーカー連盟等の定義を確認し、ソーシャルワークの概念を理解しましょう。ひとつひとつの言葉の意味を確認することが大切です。
4	相談援助の定義と構成要素② ソーシャルワークの構成要素 (第2章第2節)	ソーシャルワークの構成要素であるクライアントシステム、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源について理解する。 キーワード：クライアントシステム、クライアント、ユーザー、コンシューマー、ソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士、名称独占、ソーシャルワークの価値、ソーシャルワークの知識、ソーシャルワークの技術、社会資源	ソーシャルワーカーについて価値・知識・技術に分けて整理してみましょう。社会資源については、どのような種類があり、そして分類されているのかをまとめてみましょう。
5	相談援助の形成過程Ⅰ① ソーシャルワークの源流 (第3章第1節)	COSやセツルメントといったソーシャルワークの源流について理解する。 キーワード：慈善、四箇院、キリスト教、隣人愛、慈善組織協会(COS)、セツルメント	ソーシャルワークの源流についてまとめてみましょう。キーワードを確実に理解するようにしましょう。
6	相談援助の形成過程Ⅰ② ソーシャルワークの基礎確立期(～1930年代) (第3章第2節)	ソーシャルワークの基礎確立期(～1930年代)について理解する。 キーワード：リッチモンド、慈善組織協会、友愛訪問、ミルフォード会議、ジェネリック・ソーシャル・ケースワーク	リッチモンドの業績についてまとめてみましょう。アメリカにおける慈善組織教会の活動や1920年代における日本の動向について理解しましょう。
7	相談援助の形成過程Ⅱ① ソーシャルワークの発展期(1940年代～1950年代半ば) (第4章第1節)	ソーシャルワークの発展期(1940年代～1950年代半ば)について理解する。 キーワード：診断主義学派、機能主義学派、フロイト(S.Freud)、ランク(O.Rank)、グループワーク、コミュニティ・オーガニゼーション	診断主義学派と機能主義学派についてまとめてみましょう。関係する人物また、両学派の相違点について理解することが大切です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	相談援助の形成過程Ⅱ② ソーシャルワークの展開期（1950年代半ば～1960年代以降） （第4章第2節）	ソーシャルワークの展開期（1950年代半ば～1960年代以降）について理解する。 キーワード：貧困戦争、貧困の再発見、公民権運動、福祉権運動、問題解決アプローチ、パールマン（H.Perlman）、四つのP、ワーカビリティ、ケースワークは死んだ、状況の中の人、医学モデル、生活モデル	「貧困の再発見」についてその歴史的経緯を理解しましょう。また、パールマンの「問題解決アプローチ」について理解しましょう。この時期の日本の動向についてもまとめておきましょう。
9	相談援助の形成過程Ⅱ③ ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク （第4章第3節）	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。 キーワード：ソーシャルワークの統合化、ミルフード会議、シーボーム報告、システム理論、コンビネーションアプローチ、マルチメソッドアプローチ、ジェネラリストアプローチ、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、エコロジカル・ソーシャルワーク、相互作用	ソーシャルワークの統合化とは何か、また、ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何なのかを整理してみましょう。
10	相談援助の理念Ⅰ① ソーシャルワーカーと価値 （第5章第1節）	ソーシャルワーク専門職として身につける価値について理解する。 キーワード：個人としての価値観、受容、非審判的態度	バイステックの7原則を中心にまとめてみましょう。
11	相談援助の理念Ⅰ② ソーシャルワーク実践と価値 （第5章第2節）	ソーシャルワーク実践と価値について理解する。 キーワード：人権尊重、社会正義、尊厳の保持、利用者本位、平等	キーワードひとつひとつの意味を理解することが大切です。
12	相談援助の理念Ⅰ③ ソーシャルワーク実践と権利擁護 （第5章第3節）	ソーシャルワーク実践と権利擁護について理解する。 キーワード：基本的人権、生存権、措置制度、契約制度、虐待、搾取、人権侵害、権利擁護、アドボカシー、ケースアドボカシー、クラスアドボカシー	「措置」・「契約」制度のメリット・デメリットは何かを考えてみましょう。その視点から、権利擁護を考えてみてください。
13	相談援助の理念Ⅱ① クライアントの尊厳と自己決定 （第6章第1節）	クライアントの尊厳と自己決定、また、エンパワメント、ストレンクス視点について理解する。 キーワード：自己決定、判断能力、自己責任、利用者本位、インフォームドコンセント、IL運動（自立生活運動）、ノーマライゼーション、自立支援、エンパワメント、ストレンクス視点	クライアントの尊厳や自己決定の重要性について、キーワードひとつひとつを理解し、そして関連付けをしながらまとめてみましょう。キーワードについては、説明できることも目標にしてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	相談援助の理念Ⅱ ② ノーマライゼーションと社会的包摂 (第6章第2節)	ノーマライゼーション、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)について理解する。 キーワード: ノーマライゼーション、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)、社会的排除(ソーシャル・エクスクルージョン)、地域生活支援	ノーマライゼーションについて、歴史、理念等を理解しましょう。バンクミケルセンだけではなく、ニイリエについても理解しておきましょう。ソーシャル・インクルージョンについても、その内容等、熟知しておくことが大切です。
15	専門職倫理と倫理的ジレンマ① 専門職倫理の概念 (第7章第1節)	専門職倫理の概念について理解する。 キーワード: 道徳観、専門職倫理	なぜ、専門職倫理が必要なのか。「専門的対人援助」という視点から考えてみてください。
16	専門職倫理と倫理的ジレンマ② 倫理綱領の意義と内容 (第7章第2節)	倫理綱領の意義と内容について理解する。 キーワード: 倫理綱領、全米ソーシャルワーカー協会倫理綱領、日本社会福祉士会倫理綱領、日本社会福祉士会行動規範	倫理綱領の意義をまとめるとともに、「全米ソーシャルワーカー協会」の倫理綱領の歴史を確認するとともに、日本社会福祉士会の倫理綱領および行動規範の内容について熟知してください。
17	専門職倫理と倫理的ジレンマ③ ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ (第7章第3節)	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマの内容について理解する。 キーワード: 倫理的ジレンマ、守秘義務	倫理的ジレンマとはどういうことか、倫理的判断過程(教科書の事例)を通して理解してください。倫理原則選別リスト、守秘義務違反が正当化される場合の状況についても理解しましょう。
18	総合的かつ包括的な相談援助の全体像① 「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 (第8章第1節)	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景について理解する。 キーワード: 地域を基盤としたソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーカー、社会福祉基礎構造改革	地域を基盤としたソーシャルワーク実践とはどのようなことなのか。社会福祉基礎構造改革等を参考にしながらまとめてみましょう。
19	総合的かつ包括的な相談援助の全体像② 地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座—四つのパラダイムシフト (第8章第2節)	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座について理解する。 キーワード: 予防的アプローチ、積極的アプローチ、連携、協働	本人の「生活の場」での援助の重要性を考えてみましょう。また、ネットワークの重要性、それに伴う連携と協働についてまとめましょう。
20	総合的かつ包括的な相談援助の全体像③ 地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能 (第8章第3節)	地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能について理解する。 キーワード: ソーシャルワークの八つの機能	ソーシャルワークの八つの機能について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
21	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論① ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 (第9章第1節)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解する。 キーワード：ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの融合について理解しましょう。その中で「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」とはなにかを考えてみましょう。
22	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論② ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 (第9章第2節)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について理解する。 キーワード：エコロジカル・ソーシャルワーク、システム思考、エコシステム、介入、相互作用、コミュニティ、エンパワメント、ストレンクス視点、マルチシステム、マルチパーソンクライエントシステム、自然発生的援助システム	キーワードを確認しながら、「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の特質について理解しましょう。
23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲① 相談援助専門職の概念 (第10章第1節)	相談援助専門職の概念や職能団体の役割について理解する。 キーワード：業務独占、名称独占、日本ソーシャルワーカー協会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、チームアプローチ	専門職の成立条件とは何か、また、ソーシャルワーカーにはなぜ専門性が必要なのかを理解してください。併せて、職能団体の活動も確認しておきましょう。
24	相談援助にかかる専門職の概念と範囲② 相談援助専門職の範囲 (第10章第2節)	相談援助専門職の範囲や活躍するさまざまな場について理解する。 キーワード：社会福祉行政における専門職、民間施設・組織における専門職、独立型社会福祉士、医療ソーシャルワーカー(MSW)、精神科ソーシャルワーカー(PSW)、スクールソーシャルワーカー	福祉分野における相談援助専門職と活躍する機関や施設を理解してください。福祉行政、民間施設、医療、司法等、多領域の確認が必要です。
25	相談援助にかかる専門職の概念と範囲③ 諸外国の動向 (第10章第3節)	諸外国の動向について理解する。 キーワード：イギリスの動向、アメリカの動向、スウェーデンの動向	諸外国の動向について理解してください。最新情報の収集が大切です。
26	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能① 個と地域の一体的支援機能 (第11章第1節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（個と地域の一体的支援機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：コミュニティソーシャルワーカー、アウトリーチ	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
27	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②③ 予防機能 新しいニーズへの対応機能 (第11章第2・3節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（予防機能・新しいニーズへの対応機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：リスクマネジメント、予防、地域包括支援センター、新しいニーズ、独立型社会福祉士	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
28	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④⑤ 総合的支援機能 多問題家族への支援 (第11章第4・5節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（総合的支援機能・多問題家族への支援）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：クライアントの重層的システム、時間軸、スクールソーシャルワーカー、家族システム、エコシステム	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
29	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑥ 権利擁護機能 (第11章第6節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（権利擁護機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：権利擁護、措置から契約へ、利用者主体、自己決定、ケースアドボカシー、クラスアドボカシー、日常生活自立支援事業、成年後見制度	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
30	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑦ 社会資源開発機能 (第11章第7節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（社会資源開発機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：社会資源、社会福祉協議会	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。

■レポート課題

1 単位め	社会福祉士の役割と専門性について具体的に論じてください。
2 単位め	ソーシャルワークの形成過程についてまとめてください。
3 単位め	<p>【説明型レポート】 下記について説明してください。(各300字以上)</p> <p>① バイステックの7原則について ② 自立支援について ③ エンパワメントの定義と意義について ④ 権利擁護の意義と範囲について</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>
4 単位め	<p>相談援助に係る専門職倫理について概説してください。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

1987(昭和62)年「社会福祉士及び介護福祉士法」が施行されました。何故、社会福祉士という相談援助専門職が必要とされたのでしょうか。その必要とされるに至った時代背景を確認することが大切です。また、法令上の社会福祉士の定義を確認することも忘れないでください。現在、社会福祉士は福祉分野だけではなく多方面で活躍しています。社会福祉士が何を求められているのか。そして、社会福祉士が果たすべき専門性とは何かを整理してみましょう。使用した参考文献は必ず明示してください。

2 単位め
アドバイス

ソーシャルワークの形成過程を基礎確立期・発展期・展開期と分けてみるとよいでしょう。また、イギリス、アメリカ、日本と国別に分けて整理してみることもよいでしょう。いかなる過程を経て現在のソーシャルワークが存在しているのかを確認してください。使用した参考文献は必ず明示してください。

3 単位め
アドバイス

教科書や文献を読み、整理し作成してください。
この3単位めについては、参考文献の明示は必要ありません。

4 単位め
アドバイス

専門職倫理とはなんでしょうか。その中でも相談援助専門職の倫理とはなんでしょうか。両者の違いを把握してみましょう。また、「憲法」「法律」公益社団法人 日本社会福祉士の「社会福祉士の倫理綱領」等の確認は必須です。以上を踏まえた上で概説してください。使用した参考文献は必ず明示してください。

科目修了試験

■ 評価基準

- 1) 出題された問題の内容についてきちんと理解できているか。
- 2) 用語について基本事項が理解されているか。
- 3) 記述の分量も評価対象となる。